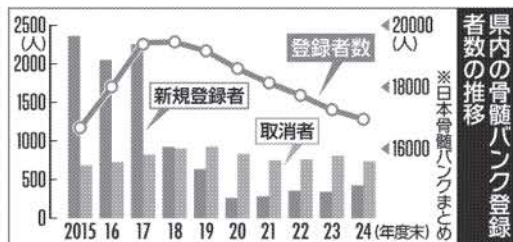


高校生向け 年 組

2025年10月28日付・下野新聞 1 面

記事は加工しています



ドナー登録は18歳以上54歳以下が対象。24年度は新規登録者が424人、55歳の年齢制限などによる取消者が734人だった。19年度以降、毎年200～500人台のペースで減っている。

取消者数に追いつかず 学生への啓発注力

24年度末の登録者はピークだった18年度末の1万9460人から25077人(12・9%)減った。対象人口千人当たりの登録者は、22年8月まで沖縄県に次ぐ2位だった。24年1月に5位へ転落した。県医業・生活衛生課は登録者減の要因として、新型コロナウイルス禍などによる啓発活動の縮小と体制の変化、若年層の登録者の伸び悩みを挙げる。24年度末の登録者数は30～50代の1万5014人にに対し、10～20代は1939人と約1割にとどまっている。

県は若者の登録を促すため、近年は県衛生福祉大学校や宇都宮大などの学園祭で登録を呼びかけている。本年度は新たに県内の学生向け就職情報誌に骨髄バンクのPR広告を載せ、認知度向上を図る予定だ。県内医療機関で実施されたドナー移植数はこの10年間で、20～30件台をほぼ横ばいで推移している。同課は「持続可能な制度にするため、若い人にも登録を促す必要がある」と期待している。

め、若い人に少しでも関心を持ってもらうとともに登録しやすい環境づくりに努める」としている。

県内登録者24年度末

骨髄ドナー6年連続減

1万6953人、若者が低調

白血病患者らに骨髄液などを提供する県内の骨髄ドナー(提供者)登録者は2024年度末時点で、前年同期比310人(1・8%)減の1万6953人となり、ピークだった18年度末から6年連続で減少したことが27日までに、県への取材で分かった。年齢制限による登録取消者数に新規登録者数が追いついておらず、1万7千人を割り込むのは9年ぶり。若者への浸透が十分でないことから、県は学生向けの啓発に注力している。10月は骨髄バンク推進月間。

(平山紗也華) 3面に関連記事

設 問

【1】記事に照らして、2024年度の県内の骨髄ドナー(提供者)がなぜ減少したのか、次のようにまとめました。空欄に当てはまる言葉を、本文中から抜き出して書いてください。

「(1)による登録取消者に(2)が追いついていないため」

【2】記事に照らして、下の①～④の正誤を○×で答えてください。

- ①県内のドナー登録者はピーク時に2万人を超えていた
②県内のドナー登録者は、対象人口千人当たりの登録者で過去に全国2位だった

録者で過去に全国2位だった

- ③県内のドナー登録者は、2019年度以降、毎年500人以上減っている
④県内のドナー登録者は、2018年度は新規登録者が登録取消者を上回っている

【3】記事に照らして、登録者が減少した主な要因は何と推測しているか答えてください。

【4】記事に照らして、本文の傍線部にある現状を踏まえて、あなたは骨髄バンクのドナー登録について、今後どのような施策が必要だと思いますか。本文中にある「オンライン登録」「スワブ検査」の語句を用いて自由に論じてください。